

昭和六十二年 国文学科講義題目

文学概論

国文学概論

国文学史Ⅰ

国文学史Ⅱ

国文学講読

萬葉集

枕冊子

平家物語

蕪村の俳諧

近代小説―逍遙から川端まで―

近代小説―逍遙から川端まで―

川端康成

国文学演習

源氏物語

源氏物語

新古今集

新古今集

曾根崎心中

小林 豊

鈴木 弘道

中野 恵海

池川 敬司

土井 順一

鶴崎 裕雄

福本 良二

北谷 幸册

池田 徳男

鈴木 徳彦

安藤 武彦

上田 光博

森崎 光子

古田 嘉雄

柿谷 雄三

榎野 廣造

鈴木 徳男

福本 良二

土井 順一

与謝野晶子研究

田山花袋と上司小剣

漱石文学

国文学特殊講義

近代日本の短篇小説

谷崎文芸と関西

古事記

古事記

国語学概論

国語史

国文法

国語表現法

漢文学史

漢文学講読

漢文学講読

詩文精粹

詩文精粹

漢文学講読

十八史略

古文真宝

言語学

書道

入江 春行

森崎 光子

鳥井 正晴

中野 恵海

辰巳 都志

北谷 幸册

真下 厚

柿谷 雄三

橋本 雅之

池田 徳男

村上 悦也

小林 悦也

長谷川 雅樹

南部 松雄

塩出 雅

蔭木 英雄

芳村 弘道

榎原 弘道

真神 仁孝

平井 綾子

国文学特別研究

川端康成研究

平安朝日記随筆文学の研究

古浄瑠璃

萬葉集

西行研究

中野 惠海

柿谷 雄三

土井 順一

北谷 幸册

鈴木 徳男

〔編集後記〕

相愛学園は昭和六十三年で百周年を迎える（女子専門学校を継承し相愛女子短期大学国文学科としては昭和二十五年に設置）。このような記念すべき年を前に、長年の念願であった『相愛国文』の第一号をおとどけでき、国文学科一同、身の引き締まる思いである。

創刊ということで、国文学科の専任教員全員が執筆した。中野恵海（近代文学担当）、土井順一（近世文学）、北谷幸册（上代文学）、柿谷雄三（中古文学）、鈴木徳男（中世文学）、池田勇（国語）である。また、文学概論ご担当の小林豊先生に（研究メモ）をご寄稿いただいた。なお、彙報として昭和六十二年度の国文学科の主な活動、講義題目を載せている。

六十二年度をふりかえると、五月に田中重太郎先生のご逝去があった。先生への哀悼の情は簡単に言い尽せないが、『平安文学研究』第七十八輯に多数の方々の追悼文が載る、枕草子関係の貴重なお蔵書は本学の図書館に収められる予定である。本号

で紹介している新古今集断簡は田中先生の奥さまのご意向で同じく寄贈される由である。永く先生のご功績を讃えたい。

なお、八月に鈴木徳男著『続詞花和歌集の研究』（和泉書院）、十二月に永石匡子（芦川照葉）著『原の城（而立書房）』の出版があった。永石は国文学研究室の助手として長く勤めていたが今年度をもって退職し、脚本作家として独立する。

国文学科の学生数はいま一、二年生あわせて四百名を越え、非常勤の先生方はじめ多くの方々のご尽力に支えられて内容の充実がはかられているが、『相愛国文』の創刊を機にいっそうの飛躍を願うものである。（鈴木）

相愛国文 第一号

昭和六十三年三月二十五日 印刷

昭和六十三年三月三十日 発行

編集・発行 相愛女子短期大学国文学研究室

〒559 大阪市住之江区南港中四丁目四番一

☎〇六十六二一五九〇〇（代）

製 作

編集工房ミトラ 〒640 和歌山市湊一―三―二十二

☎〇七三四一五一〇六九二